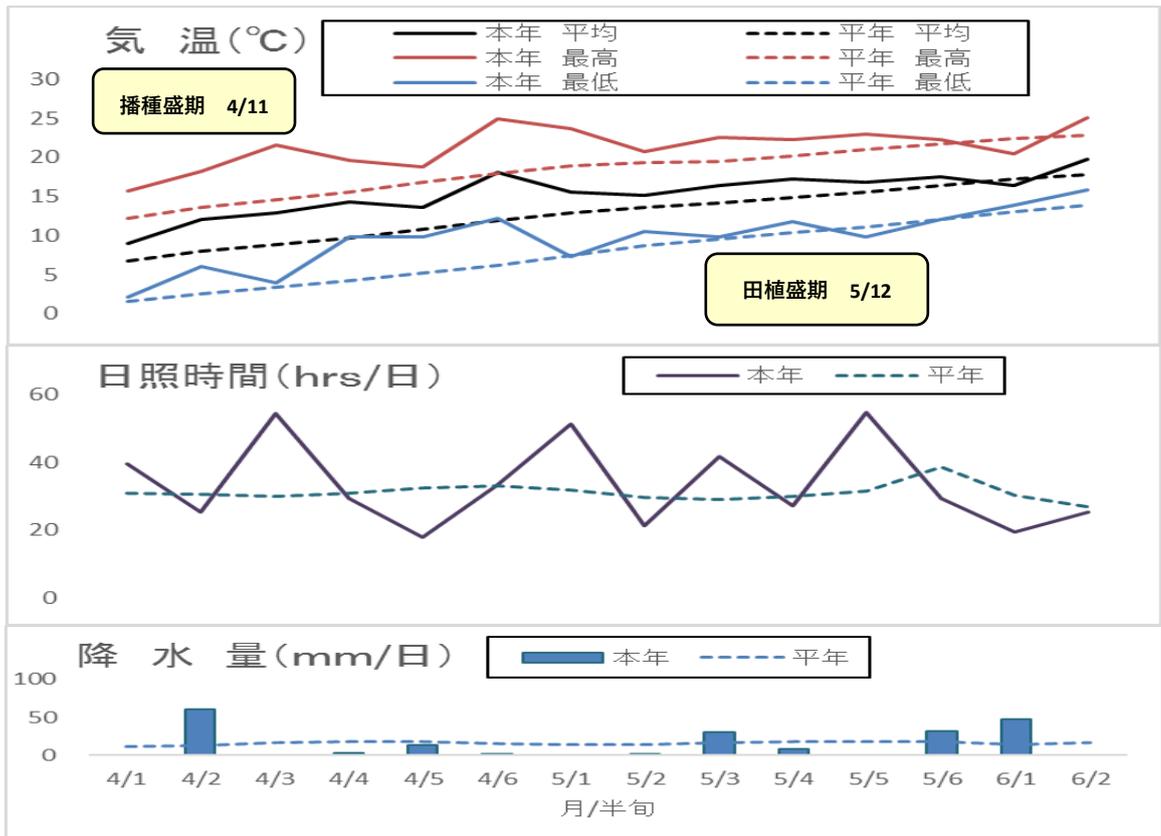


～5月中旬～下旬植えは やや茎数不足 適正な水管理を！～

## 1 令和6年の気象経過（古川アメダス）と東北地方の1か月予報



### ◆6月13日発表 東北地方の1か月予報(6月15日～7月14日までの天候見通し)【気象庁ホームページより】

- ・ 平年と同様に曇りや雨の日が多い。期間の前半は、気温がかなり高くなる見込み。
- ・ 向こう1か月の気温は、高い確率80%、平年並み若しくは低い確率10%。
- ・ 降水量は、多い若しくは少ない確率30%、平年並みの確率40%。
- ・ 日照時間は、多い若しくは少ない確率30%、平年並みの確率40%。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	東北地方	向こう1か月 06/15～07/14	10 (低)   10 (平)   80 (高)
		1週目 06/15～06/21	10 (低)   10 (平)   80 (高)
		2週目 06/22～06/28	10 (低)   30 (平)   60 (高)
		3～4週目 06/29～07/12	20 (低)   30 (平)   50 (高)
降水量	東北地方	向こう1か月 06/15～07/14	30 (低)   40 (平)   30 (高)
		日照時間	東北地方

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

## 2 生育状況（6月10日現在）

(1) 作況試験 5月10日植え ひとめぼれ（古川農業試験場）

- ・草丈は、23.4cmで平年比95%である。
- ・茎数は、m<sup>2</sup>当たり250本で平年比89%である。
- ・葉色（葉緑素計の測定値）は、39.4で平年よりやや低い。
- ・茎数は平年より少なく、葉数は6.2枚で生育ステージは概ね平年並みである。

草 丈			茎 数			葉 色			葉 数		
本 年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (本/m <sup>2</sup> )	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (GM値)	前年差 (GM値)	平年差 (GM値)	本 年 (枚)	前年差 (枚)	平年差 (枚)
23.4	104	95	250	99	89	39.4	-1.2	-1.1	6.2	-0.2	-0.3

(2) 生育調査ほ（古川農業試験場及び各農業改良普及センター）

- ・品種別の草丈は27～30cm程度で、平年比102～110%である。
- ・茎数はm<sup>2</sup>当たり159～200本で、平年比67～133%である。
- ・葉色は35.3～38.4で、概ね平年並みである。

品種名	草 丈			茎 数			葉 色		
	本 年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (本/m <sup>2</sup> )	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (GM値)	前年差 (GM値)	平年差 (GM値)
ひとめぼれ	27.8	105	102	164	85	86	38.4	0.0	0.7
ササニシキ	27.3	105	102	159	92	67	35.3	-0.8	-1.3
つや姫	30.0	108	110	200	103	133	37.6	-0.9	1.6

- ・移植時期別（ひとめぼれ）の草丈は23～28.5cmで、平年比95～105%である。
- ・茎数はm<sup>2</sup>当たり114～255本で、平年比62～113%である。
- ・葉色は36.2～42.44で、概ね平年並みである。

●5月中旬植え及び下旬植えは、茎数が少なく葉色も低い傾向にある。これは、中旬及び下旬に強風が多く、一部で植え痛みや生育抑制を受けたためと考えられる。

移植時期	草 丈			茎 数			葉 色		
	本 年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (本/m <sup>2</sup> )	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (GM値)	前年差 (GM値)	平年差 (GM値)
5/1～9	27.1	103	98	255	122	113	42.4	4.6	3.0
5/10～19	28.5	106	105	127	61	62	36.7	-3.5	-1.8
5/20～31	23.0	97	95	114	94	85	36.2	4.1	2.3

## 3 今後の管理

(1) 水管理

- ・分けつが少ないほ場では、低温時には水深5～6cmの深水、それ以外は水深2～3cmの浅水として、水温・地温の上昇を図り、生育量(分けつ)の確保に努める。
- ・稲わらなど、未熟有機物が多く施用されているほ場では、硫化水素などの有害なガスが発生しやすい。特に、まとまった降水により長期間にわたって湛水状態にあるほ場では、その傾向が強いので、一時落水して酸素を供給するとともにガス抜きを図る。その後は、浅水と自然落水の繰り返しによる間断かん水を行う。

## (2) 病虫害防除【宮城県 農業・園芸総合研究所, 病虫害防除所ホームページより】

### ① いもち病

- ・宮城県病虫害防除所が公表した「発生予報第3号（6月10日発行）」によれば、葉いもちの「発生開始期は平年並みの7月第1半旬」で、発生量は「平年並み」と予想されている。
- ・6月10日の調査時点でも、残苗が放置されているほ場が散見される。まだ残苗での発病は確認されていないが、本田での発生源になるので速やかに処分する。
- ・「葉いもちの感染好適条件の出現状況（BLASTAM）」による推定では、6月4日までに感染好適条件の広域発生は、まだ確認されていない。
- ・例年、東北地方は6月中旬頃に梅雨入りするので、今後、曇雨天の続く日が多くなる。箱施用剤による防除を行っていない場合は、水面施用剤を防除適期（6月中～下旬）に散布する。

### ② 斑点米カメムシ類

- ・畦畔や雑草地・牧草地等のイネ科雑草は、斑点米カメムシ類の増殖源となる。
- ・計画的に草刈りを行い、カメムシ類の増殖を抑制する。
- ・水田内にイヌホタルイやノビエ等が多く残草すると、アカスジカスミカメが侵入・増殖して被害が助長される傾向にある。残草が目立つ場合は、中期・後期除草剤で追加防除を実施する。
- ◆大型の斑点米カメムシ類「クモヘリカメムシ（体長15～17mm）」が、県南部から北部でも発生が確認されている。本種は、針葉樹林で越冬することが確認されている。今後の発生拡大に注意する（大型のカメムシ類は、籾の内外穎のどの部分からでも貫通して吸汁する）。なお、クモヘリカメムシの画像については、宮城県病虫害防除所のホームページを参照されたい。

## 4 乾田直播栽培における今後の管理



【乾田直播試験展示ほ（仙台市若林区）】

- ・4月～5月が高温で推移したことにより、出芽・苗立ちは平年より早く、6月10日現在の生育は草丈20～30cm、葉齢は5～6葉程度で、分けつが始まっている。
- ◆出芽が遅れている場合は、ほ場全体に薄く入水し（フラッシング）、出芽を促す。
- ・苗の生育が揃ったら5cm程度の水深を確保し、雑草防除のため土壌処理剤（初中期剤）を散布する。散布後の管理は、移植栽培と同様とする。